

知ればもっと好きになる。

生き物の冬のすごし方

冬を乗り切る動物たち・植物たち

まずは動物ですが、雪の多い地方では冬も活動している動物は少ないです。地表近くが雪で覆われるために食べ物を探しにくいからでしょう。それでも、なんとか食べ物を探して生活している動物たちもいます。ノウサギ、カモシカなどは、木の幹や枝の皮を食べています。木の果実や種子も鳥や小動物の食料になります。キツツキの仲間は木の中にある虫を食べています。リスやネズミの仲間、ヒガラ、コガラ、ヤマガラ、カケスなどの野鳥は、秋のうちに巣穴や木の幹などに食料を貯める「貯食」を行います。そして、そのような動物を獲るキツネなどの肉食獣もいます。一方で冬眠という手段をとる生き物があります。ツキノワグマ、ヤマネなどの哺乳類、カメ、ヘビ、カエルなどの爬虫類・両生類の仲間が冬眠します。カメムシ、スズメバチ、テントウムシの仲間などの昆虫も成虫で冬眠しますが、ギフチョウのようにさなぎで冬眠するものもいます。また、カマキリのように冬は卵で過ごすという方法もあります。

植物ではどうでしょうか。植物は根から水分を吸収し、葉で二酸化炭素を吸収し太陽光を受け、でんぷんなどの炭水化物を合成しています。これを光合成(こうごうせい)と呼びます。冬の寒さ、乾燥、降雪による日照不足は、すべて光合成にとって不利な条件です。冬は秋までに蓄えておいた炭水化物を使って体を維持するしかありません。消費を少なくするため、植物は冬をほぼ完全に眠って過ごします。そのため、樹木では枝や幹の成長が止まります。枝の成長が止まった部分には、芽(冬芽)ができます。草の場合には地上部分が枯れます。そして、地面すれすれや地下に芽ができます。一年草では根も含めて全部が枯れてしまい、冬は種子で過ごします。これは、卵で冬を過ごすカマキリといっしょのやり方です。

植物の場合は、降り積もる雪の重みにも耐えなければなりません。広葉樹では葉っぱに雪が積もり、雪の重みに耐え切れず枝が折れてしまいます。雪の多い場所では、冬に葉をつけている大きな木は、葉が細く樹形が円錐形で雪が積りにくいシラビソやトウヒなどの針葉樹に限られます。一方で、雪を利用して、冬を乗り切る植物もあります。ひるがの高原でよく見られるハイイヌツゲです。ハイイヌツゲは、一年中小さな葉を付けている常緑樹ですが、地面を這うことによって、雪の中にもぐりこみ、冬の寒さや乾燥を避けていると考えられます。

冬は、すべての生き物たちにとって大変な時期ですが、こうしてみると、動物も植物もさまざまな方法で冬を乗り切って生活し、それが多様な生き物たちが存在する理由にもなっていると思います。

【情報 提供/写真：瀬川和也】

冬の厳しい生活が、多様な生物たちが存在する理由になっている。



【ヤマガラ】アカマツの種子をくわえている。



【オオアカゲラ】木の皮を剥いで虫を探している。



2007.3.25撮影(上)と2011.3.22撮影(下)年によって全然違いますね。春の雨の後は1日でこのくらい劇的にかわることもあり、驚かされます。



雪解け前(上)と雪解け後(下)の植物園園内の湿原の半分以上がハイイヌツゲに覆われているが、冬は完全に雪の下になる。

雛の生まれる初夏が待ち遠しい。 ひるがの高原で繁殖する渡り鳥「コムクドリ」

英語名はred-cheeked starling(赤いほっぺのムクドリ)。頭上は灰白色、背面紫黒色で下面是汚白色、赤いほっぺと緑の背中が雄の特徴です。雌はほっぺに模様がなく、色も全体に茶色がかっており地味な印象です。「ギユル・ギユル」など。さえずりは「チ チチ、ピーキュルキュルジョイジョイジョイ」など明るい声と濁った声を混ぜながら早口で鳴くのが特徴ですが、巣を監視している時には、「ギャー・ギャー」と騒々しく鳴きます。

コムクドリは渡り鳥で、日本の本州中部以北で繁殖し、冬季はフィリピン、ボルネオ島など東南アジアに渡るそうです。ひるがの高原はコムクドリの繁殖地となっています。

繁殖期間は5月～6月頃、巣はキツツキの古巣を利用して作りますので、事前にあたりをつけておけば営巣観察もそれほど難しくありません。人里近くでも生息しますので、みなさんも普段から目にしていないかもしれません。

写真はひるがの高原の2か所の営巣地で撮影しました。ミドリ虫や毛虫を巣穴に運ぶ様子が見てとれます。この巣からは3羽の雛が巣立ちました。今年の夏もまた来てくれますように…

【文/写真：舟橋哲也】



File No.5

コムクドリ

スズメ目ムクドリ科
全長約19cm



♂ オス



♀ メス



冬の

ひるがの高原スキー場

NEWS



広びろ～☆

ファミリーで利用したお客さんから「日本一安全なスキー場だと思ふ。」という声が出るほど、小さなお子さんにも滑りやすいゲレンデです。リフトに乗らなくてもほぼ全体が見渡せて、例えば自分の子供がどこを滑っているか、下からでもだいたい探せます。
無料で利用できる屋内キッズスペースにはちょっとした遊具もあり、ゲレンデで遊べない小さなお子さんにも喜ばれています。
売店には今回のメイン企画でご紹介した「ひるがもちゃん」グッズをはじめ、種類豊富なおみやげや、スキー・スノーグッズ、雪遊びグッズも充実。キッズサイズのウェアも販売しています。また、ひるがもキッズランドでは、毎週土日にイベントを開催していて、こちらも好評です。



ひるがもパパに見守られて
楽しく遊んじゃおう♪



ゲレンデには
美味しいものいっぱい!



スノーラフティング

去年に引き続き
大人気♪

雪の上をパウンドしながら走るゴムボート。
一回500円。楽しい歓声ははずんではずんで…。

たのしーい♪



今、注目度120%! エアボード



昨年、ひるがのに登場した新しいスノーアトラクション!
ゲレンデを腹ばいで滑走。雪面ストレスの滑走は迫力満点。
複数のメディアでも取り上げられ、少しづつ人気が高まっています。
詳しくは無料休憩場「カルガモ」内にあるパンフレットをご覧ください。
スキー場事務所でも案内して下さるそうです。